

猛暑で夏物商品の販売やプールの入園者が好調、 県産米の予想作況指数も前年を上回る105の「やや良」

〈千葉市内における平均気温（℃）の推移〉

	2010年	2009年	平 年
7月上旬	26.3	24.5	23.2
7月中旬	27.7	26.6	24.6
7月下旬	29.0	26.3	25.9
7月中	27.7	25.8	24.6
8月上旬	28.8	26.0	26.6

銚子气象台によれば、7月中の千葉市内の平均気温は27.7℃と前年（25.8℃）を1.9℃、平年（24.6℃）を3.1℃それぞれ大幅に上回り、7月としては1966年の観測開始以来最高を記録した（従来の最高は2004年の27.5℃）。

特に、7月下旬には最高気温が35℃を超える猛暑日が4日連続（7月21.22.23.24日）したことから29.0℃（前年26.3℃、平年25.9℃）まで上昇した。また、7月中は30℃を超える真夏日が21日間と前年（12日間）を9日間も上回った。

8月上旬中は猛暑日こそなかったが、引き続き前年や平年を上回っている。

このため、県内では夏物商品の売れ行きが前年を大幅に上回るとか、大型プール施設・海水浴場でも7月17日の梅雨明け後、入園者・来場者数が急増した。

県内の一部百貨店では、7月中のピアガーデン来店客数が若い女性客などを中心に前年比7割の大幅増加。屋内ビール園の売上も同1割方上回った。

また、大手自動販売機サービス業者によると、7月中はミネラルウォーターや茶飲料、健康飲料等の夏物商品の売上が前年比3割増加した。

県内産スイカは、春先は低温の影響から出荷時期が例年比遅れ気味であったが、7月入り後は本格的な暑気到来から出荷量、売上とも急回復し、前年を5割方上回った。

（株）米穀データバンクの発表によれば、7月31日現在の千葉県産米の予想作況指数は105の「やや良」で前年の100「平年並み」を5ポイント上回っている。（森）

- ▽夏物商品 : 県内大手家電量販店では、エアコン・卓上扇風機の売上が前年比2～3割増加。在庫切れの商品も出ている。
- ▽ピアガーデン : 県内の一部百貨店では、ピアガーデンの来店客数は若い女性客中心に前年比7割増の盛況ぶり。また、屋内ビール園の売上も同1割方増加。
- ▽大型プール施設 : 梅雨明けの開園以来、入園者数は夏休みを利用した家族連れを中心に前年同期を5割方上回った（7月31日現在）。九十九里町の海水浴場の来場者数は前年10万5千人から11万8千人と1割超上回った（7月31日現在）。8月入り後も同じペースで伸びている。
- ▽清涼飲料水 : 大手自動販売機サービス業者によると、ミネラルウォーターや茶飲料、健康飲料の売上は、前年同期比3割増加（7月31日現在）した。商品によっては、在庫不足から注文しても欠品が出ているとのこと。
- ▽県産スイカ : 大田市場によれば、春先は寒く、スイカの出荷は例年比遅れ気味で、6月中の売上は伸び悩んだ。しかし、7月入り後は暑さ到来から、出荷量、売上とも急回復し、前年同期比5割方増加。
- ▽米作 : （株）米穀データバンクの発表によれば、7月31日現在の千葉県産米の予想作況指数は105の「やや良」で前年の100「平年並み」を5ポイント上回っている。ただ、県内JAでは7月入り後、猛暑続きで豊作を予想しているが、過度の猛暑は米の品質低下につながるほか、米価下落要因にもなることを懸念。